

【平城遷都1300年記念アジアコスモポリタン賞】 第4回受賞者を発表

【大賞】

福田 康夫（元日本国内閣総理大臣）

【経済・社会科学賞】

リチャード E. ボールドウィン

（ジュネーブ高等国際問題開発研究所国際経済学教授）

【文化賞】

チームラボ（アート集団）

ノグチ ミエコ（ガラスアーティスト）

【メモラブル賞】

故スリン・ピッサワン（元ASEAN事務総長）

ASIA COSMOPOLITAN AWARDS（平城遷都1300年記念アジアコスモポリタン賞）は、「大賞」、「経済・社会科学賞」、「文化賞」、ならびに特別賞となる「メモラブル賞」の4賞について第4回受賞者を上記の通り発表します。

ASIA COSMOPOLITAN AWARDSは2年に一度、東アジア域内における文化面、経済面での地域統合、域内の格差是正、持続可能な成長社会形成を主眼に、2012年に創設され、質的に充実した東アジア共同体形成に資する優れた活動を行った個人・団体に対し、国籍を問わず、授与される今回第4回目となる国際賞です。

また、本賞の授賞式典ならびに受賞を記念した基調講演、受賞者による記念講演を含む記念フォーラム「アジアコスモポリタン賞受賞記念奈良フォーラム」を2019年1月10日（木）に奈良県にて行います。多数のご参加をお待ちしています。

以上

【アジアコスモポリタン賞についてのお問い合わせ】

アジアコスモポリタン賞事務局
東アジア・アセアン経済研究センター（ERIA）
E-mail: shimpei.taniguchi@eria.org
Tel: +62-21-5797-4460
Mob: +62-813 8446 9949（担当: 谷口）



【フォーラム内容・申し込みについてのお問い合わせ】

アジアコスモポリタン賞受賞記念奈良フォーラム2019事務局
株式会社インターグループ内
E-mail: cosmo-nara2019@intergroup.co.jp
Tel: 06-6372-9345 / Fax: 06-6376-2362

【第4回ASIA COSMOPOLITAN AWARDS 受賞者 略歴】
大賞

福田 康夫(Yasuo Fukuda)

1936年東京府東京市生まれ。群馬県高崎市出身。父である福田赳夫氏の秘書を14年間務めた後、1990年の衆議院議員選挙において、旧群馬3区から出馬し初当選。第2次森内閣において内閣官房長官を務め、2007年9月、第91代内閣総理大臣に就任。首相在任期間中は対東南アジア外交の基本原則「福田ドクトリン」を基礎にアジア・太平洋地域に対する日本政府の新たな外交理念を打ち出した。アジア外交を重要視し、ASEAN加盟国が推進する「ASEAN共同体」構想への支持を表明。東アジア・アセアン経済研究センター(ERIA)の設立に対しても多大なる尽力を行った。

経済・社会科学賞

リチャード E.ボールドウィン(Richard E. Baldwin)

1958年生まれ。1991年よりジュネーブ高等国際問題開発研究所国際経済学教授。1990年、ブッシュ政権(当時)の大統領経済諮問委員会シニア・エコノミストに就任。数多くの政権や欧州委員会、経済開発機構(OECD)、欧州自由貿易連合(EFTA)等の顧問を歴任。ICT革命による産業単位の国際分業から生産工程・タスクの国際分業への移行と位置付け、ASEANにおける連結性概念形成に理論的基礎を与えた。自身の世界経済感は今後進むべき産業・貿易政策や経済統合についての展望を示すものとして、アジアの政府関係者にも大きな影響を及ぼしている。

文化賞
チームラボ(teamLab)


2001年から活動を開始。集団の創造によって、アート、サイエンス、テクノロジー、デザイン、そして自然界の交差点を模索している、学際的なウルトラテクノロジスト集団。代表である猪子寿之氏を始めとして、アーティスト、プログラマー、エンジニア、CGアニメーター、数学者、建築家など、様々な分野のスペシャリストから構成されている。自己と自然の間に、そして、自己と世界との間に境界はないと考え、アートによって、人間と自然、そして自己と世界との新しい関係を模索。サンフランシスコ・アジア美術館(サンフランシスコ)、アジア・ソサエティ(ニューヨーク)等に作品が永久収蔵されている。


ノグチ ミエコ(Mieko Noguchi)

1969年 神奈川県生まれ。武蔵野美術大学短期大学部工芸デザイン専攻科在学中よりガラス制作を始め、1991年同大学卒業、吹き硝子工房横濱硝子に入る。2004年神奈川県藤沢市に吹きガラス工房FUSION FACTORY(株)野口硝子設立。シルク・ドゥ・ソレイユZEDミュージアムオリジナル作品、フェアモントジャカルタのアートワーク等の作品制作。2013年よりインドネシア、ボゴールにある自閉症患者の施設と提携しチャリティ展示会開催。以降、毎年継続して当該イベントを実施。2018年日本ASEAN友好45周年記念作品を制作、日本代表作品としてジャカルタのASEANギャラリーに収蔵。

メモラブル賞(特別賞)

故スリン・ピッスワン(Surin Pitsuwan)

1949年タイ王国ナコンシータマラート県生まれ。タマサート大学政治学部講師、副学長を経て、1986年タイ王国下院議員に当選。1997年から2001年まで外務大臣を務め、2006年から2007年まで国家立法議会議員。2008年ASEAN事務総長に就任、ASEANの国際的なプレゼンスを前例のないレベルに引き上げ、世界中とASEANのつながりを構築した。ASEAN事務総長の任期中は、民衆中心のコミュニティーを実現するための取り組みの一環として市民団体との交流を強化することに熱心に取り組み、東アジアにおける地域統合について様々な国際会議でも頻繁に講演を行うなど、ASEANの発展に大きく貢献した。

第4回アジアコスモポリタン賞 大賞 福田 康夫(Yasuo Fukuda)



受賞に値する功績

第4回アジアコスモポリタン賞の大賞は福田康夫氏に授与される。福田氏は、父福田赳夫首相の秘書として政治の世界に身を投じ、53歳で1990年の第39回衆議院議員選挙に立候補、初当選を果たした。その後、外務政務次官、自由民主党外交部会長など外交関係のポストを歴任し、森喜朗、小泉純一郎政権で内閣官房長官として内外政に大きな役割を果たした。

2007年9月、福田氏は第91代内閣総理大臣に就任し、在任中にG8北海道洞爺湖サミットや、第4回アフリカ開発会議（TICAD）などの多国間首脳級会議を主催し、気候変動に対する取り組みの強化、金融市場の安定化や原油価格高騰への国際的な対応、経済発展や開発といった喫緊の課題に対して、日本が主導的に取り組むことを表明した。また2008年5月の国際交流会議「アジアの未来」において福田氏は、アジアが世界史の主演へ躍り出たとし、「日本社会が開かれた多様性に生きることを原点とし」、「多様なアジア・太平洋、多様な世界に自らを開いていく」中においてアジア・太平洋諸国の友人とともに無限の可能性を求めていくと表明した。これは、父福田赳夫首相が打ち出した「福田ドクトリン」（1. 日本は軍事大国とならず世界の平和と繁栄に貢献する。2. 東南アジア諸国連合（ASEAN）各国と心と心の触れあう信頼関係を構築する。3. 日本とASEANは対等なパートナーであり、日本はASEAN諸国の平和と繁栄に寄与する。）の思想を継承発展させた日本外交の指針を示すものであった。

このように福田氏はアジア外交を重要視し、首相時代に日中、日韓、そして東南アジア関係を日本外交の最重要課題として取り組んだ。中でも東南アジア諸国連合（ASEAN）による、経済統合と域内格差是正、そして普遍的価値に立脚したASEAN憲章の整備という取り組みを高く評価し、将来の「ASEAN共同体」成立に対する日本の協力として、日本政府ASEAN代表部やASEAN担当大使を新設すると表明した。福田氏のそうした強い思いと貢献によって2011年5月26日、インドネシアのジャカルタに東南アジア諸国連合（ASEAN）日本政府代表部が開設され、日本とASEANとの「こころとこころの関係」の新たな1ページが刻まれた。また福田氏はASEANの経済統合を一層推進するための国際機関として東アジア・アセアン経済研究センター（ERIA）の必要性を理解し、同機関の設立が合意された2007年11月の第3回東アジアサミットに出席してその設立に対して多大なる尽力を行った。

総理大臣退任後から議員引退後の今日に至るまで、福田氏はボアオ・アジア・フォーラム諮問委員会主席、アジア人口・開発協会理事長、日本インドネシア協会会長等を務め、精力的にアジアの相互理解と発展のために活動している。福田氏がアジア太平洋交流の発展においてなし遂げた貢献は多大であり、日本の国益のみならず、アジアおよび世界の平和と繁栄を視野に収めた、真の国際的政治家である。アジアの繁栄と統合に向けて現在も活躍されている福田氏の功績は、第4回アジアコスモポリタン賞の大賞受賞者としてふさわしいものと言える。

第4回アジアコスモポリタン賞 経済・社会科学賞 リチャード E. ボールドウィン (Richard E. Baldwin)



受賞に値する功績

ボールドウィン教授は、2008年にノーベル経済学賞を受賞したポール・クルーグマン（ニューヨーク市立大学教授）を指導教授としてもち、国際貿易、空間経済学、経済地理学といった経済学の実分野において優れた業績を積み重ねてきた。それまでの国際貿易論では、リカードの比較優位モデル、ヘクシャー・オリーン・モデル等の伝統的理論に基づいた分析が多かったが、ボールドウィン教授は、クルーグマン、藤田昌久（京都大学名誉教授、2017年第3回同賞受賞）らと共同で、いわゆる「新」貿易論（産業内貿易を説明）、さらには「新々」貿易論（企業の海外現地生産を説明）を発展させる画期的研究を行い、現代経済学の新たな潮流となっている空間経済学や経済地理学のパイオニアとも言える存在である。

また、ボールドウィン教授の関心は経済学の理論的側面だけにとどまらず、経済統合、世界貿易機関(WTO)、自由貿易協定(FTA)、地域間協力のあり方など、実証的な国際関係の実分野においても精力的研究を行い、世界の政策担当者にも大きな影響力を及ぼしてきた。最近では、グローバリズムや保護主義、Brexit等の問題について、一般向けの論稿も精力的に発表しており、国際経済の理論と現実の架け橋となる研究と情報発信を行える世界でも数少ない研究者である。他方で、若くしてブッシュ（父）政権の大統領経済諮問委員会(CEA)シニア・エコノミストに就任し、GATTウルグアイ・ラウンド交渉や日米通商交渉でも活躍したという輝かしい経歴も持っている。

特にASEANおよび東アジアにおいては、1990年頃を境に機械産業を中心とする国際的生産ネットワークが世界に先駆けて発達してきたが、それをボールドウィン教授はICT革命による産業単位の国際分業（第1のアンバンドリング）から生産工程・タスク単位の国際分業（第2のアンバンドリング）への移行と位置付け、ASEANにおける連結性の概念形成に理論的基礎を与えた。ボールドウィン教授の研究成果は、産業とインフラの連結性の重要性を主張したERIAの『アジア総合開発計画』（CADP）の思想的基礎を成しており、これはさらにはASEANの公式文書である一連の『ASEAN連結性マスタープラン』にも反映されている。このような意味において、ボールドウィン教授がASEANの連結性強化、またそれによる経済発展と発展格差縮小に果たした役割は極めて大きいと言わねばならない。

加えて、近作『世界経済大いなる収斂—ITがもたらす新次元のグローバリゼーション』では、さらなるコミュニケーション技術の進歩により対面でのコミュニケーション費用が削減されて、人単位の国際分業（第3のアンバンドリング）が発生する新次元のグローバリゼーションが勃興しつつある状況を示し、世界中の関係者に衝撃を与えた。彼が描く未来像では、いわゆる「バーチャルな移住性」が実現し、発展途上国にいる労働者が先進国の中で労働サービスを提供する「テレロボティクス」、エンジニアや弁護士等の頭脳労働者が遠隔で頭脳労働サービスを提供する「テレプレゼンス」が発達するとしている。ASEANを含む発展途上国においても、デジタル技術による新たな連結性強化の時代が到来することを予感させる。

このようなボールドウィン教授の世界経済観は、今後進むべき産業・貿易政策や経済統合についての展望をも示すものとして、アジアの政府関係者にも大きな影響を及ぼしている。したがって、これまでのアジアを含む世界経済への貢献と今後の一層の活躍を期待し、今回のアジアコスモポリタン賞経済・社会科学賞はリチャード・ボールドウィン教授に授与される。

第4回アジアコスモポリタン賞 文化賞 チームラボ (teamLab)



受賞に値する功績

世界は多様であり、多様な言語の下に、多様な文化を形成し、多様な芸術を形成してきた。その多様な言語、文化によるアプローチにも関わらず、人類は人類に共通するいわば芸術言語ともいべきものによって、人間存在の根源にふれ、優れた芸術に共通してもらわれてきた「感動」を体験してきたと言える。その感動の芸術言語として、映像、絵画などの2次元的表現だけでなく、彫刻、建築等3次元で表現するあらゆる努力が行われてきた。しかしながらその表現の方法についてはあらゆる試行錯誤にもかかわらず、20世紀までの表現技術による桎梏が立ちはだかってきたと言える。あまりにも多くの制約の元で、すべての芸術家はある種の禁じ手を持たざるを得ず、その制約の中に逆に無限の可能性を求めてきたといえよう。

21世紀の新しい技術が提示して来たものは、自己実現の可能性を飛躍的に拡大し、双方向で、連結し、自由に、一人の天才のなせる技だけではなく、多くの天才が統合しながら創造することを可能ならしめる場を創りだし、そこにおいて芸術的祈りのような思いが、より多くの人のところに届き、そこに灯をともし、さらに連結し、参加し、統合する「竟鳴」と言うことを可能にした。チームラボは様々な分野の才能を集め、その才能を共振させることにより、芸術の直面してきた技術的桎梏を解放し、「デジタルアート」という場を創りだした。しかも禅の世界がもたらした造物主の遍照性(inclusiveness)を示す「草木国土悉皆成仏」の思いなどをともにし、日本において俳諧連歌などが行ってきた「集団的創造」という芸術のあり方を新しいテクノロジーにより現代に蘇らせ、世界にその具体的ヴィジョンを提示した。自らをアートコレクティブと称しアートにおける作品と鑑賞者との境界をなくす(ボーダレス)という新しい美のあり方に挑戦し、斬新な発想とデジタルを中心としたテクノロジーを操る圧倒的な技術力で独創的なデジタルアート作品を生み出している。作品が自ら動き、触れれば時に生きているかのような反応を示したり、また鑑賞者が作品の中を動くことによって作品の一部になれる、といったアートにおいて、これまで人類が殆ど体験したことのない異次元の展開がそこにはある。光や音、センシングやネットワーク、プロジェクションマッピングなど現代のデジタルテクノロジーをフルに駆使することで、それを見る者に大きな没入感を与え、人間と自然、人間と世界との新しい関係を模索している。製品の機能的品質は差別化の大きな要素とはならなくなる未来において真の価値は、人間のこころの奥底に届き得るかが問われることになる。

チームラボの試みは、人類に共通の感動をもたらすと抽象的に考えられてきたアートに対して、技術をベースに創り上げた一つの具体的な提案を、発信している。「多くの産業、もしくは企業は、生み出す製品やサービス、そして存在自体が、“人がアートの感じるようなもの”でないと生き残れない社会になっていく」状況において、その具体的活動が世界で高く評価されているチームラボは、新しい社会に積極的に貢献するイノベーションのコアたらんとするものであり、まさに現代のアジアコスモポリタンと言えよう。今後の大いなる発展性とその創作活動の領域拡大とに期待し、アジアコスモポリタン賞 文化賞をチームラボに授与する。

第4回アジアコスモポリタン賞 文化賞 ノグチ ミエコ (Mieko Noguchi)



受賞に値する功績

ノグチ氏はガラス工芸を選択する感性の独自性に加えて、身体的総合力が求められる世界において、女性の持つ生命の根源的エネルギーとも言うべきものを基礎に、マイクロコスモスとマクロコスモスとの融合に成功した。自己の内面に宇宙を見出すその思想は、宇宙を構成する基本要素である五大(地水火風空)には響きがあるとした空海の世界観に通じるものである。ガラスの球体の中に宇宙の全体性を具現化するとともに、自己の内面を具象化することにより、自然の中に移ろいやすさを見出すアジア的無常観を、華麗な曼荼羅の世界とも言うべきものに昇華させている。

2018年、日本ASEAN友好協力45周年記念作品の制作を依頼され、ノグチ氏の作品が日本代表作品としてインドネシア、ジャカルタのASEANギャラリーに収蔵されている。本作品は地球から銀河系に至るまでを包含する世界観を、命と自然という観点で表現しており、見る者に「宇宙」の根源を問いかけている。ガラスという存在はその透明性が神秘的である。光はガラスを自在に通じ抜け、捻じ曲がりながらも見る者の視線を捉えつつ、宇宙空間に無数の星を誕生させたビッグバンを連想させていく。ガラスによって、本来透明な空気や水、空間が可視化されるからこそ、ガラス芸術の価値があり、ノグチ氏のアートが一貫して追求してきたのは、この空間のオブジェ化である。その独創的、革新的な作風と女性らしい繊細な感性をダイナミックに昇華させ表現する様は、国境や性別を越えて支持されており、国内外において個展を多数開催し、TOYOTAやシルクドソレイユ等国際的団体の記念作品をはじめ、インドネシアFAIRMONT JAKARTAのガラスアート回廊などを制作している。

また、ノグチ氏は2004年以来、ASEANの障がい児教育にも自身の生涯をささげしており、インドネシア、ボゴール市にある自閉症の施設INDRIYA(インドリア)と提携し慈善活動を続けている。施設の子供たちと共にガラスの端材を使用して創り、制作した作品を展示会にて販売し、それが売られると言うことにより彼らに自信を与え、施設の活動を支援している。2018年で第10回目を数える。毎年継続的な支援を自ら実施する彼女の姿勢は、ASEAN社会・文化共同体が目指す、「人々の参加を得、人々に恩恵をもたらす遍照的(Inclusive)で持続的な共同体の実現」と一致するものとなる。ガラス工芸の領域において、今後の更なる活躍と東アジアにおける継続的な文化育成、発展に大いに貢献し続けること期待し、アジアコスモポリタン賞、文化賞を授与する。

第4回アジアコスモポリタン賞 メモラブル賞 故スリン・ピッサワン (Surin Pitsuwan)



受賞に値する功績

今回特別賞であるメモラブル賞は、故スリン・ピッサワン氏に授与される。スリン氏は、タイ王国外務大臣、そしてASEAN事務総長を歴任した。また当アジアコスモポリタン賞の創設より選考委員を務め、ASEAN事務総長退任後も2017年11月30日に他界するまで、選考委員として同賞の発展に大きく貢献した。

タイのバンコクポストは、氏のことを「事実上のASEAN外務大臣」と評した。それは、氏がASEAN事務総長の地位が外務大臣クラスとなって最初の事務総長に就任したということのみならず、氏はまさに「ASEANの顔」として、国際フォーラムに数多く出席し、多くの講演を行い、日々ASEANの為に世界中を飛び回っていたからである。彼の残した「私の書斎は空の上である」という言葉はまさにその通りであった。

2008年に発効したASEAN憲章を実施していく上でもスリン氏は大変大きな役割を果たした。氏の指導力の下で、ASEANは、その加盟10カ国が履行する普遍的原則を伴った、規則に基づく国際機関となることを促進した。そうした意味でスリン氏はまさに「ASEAN統合の父」とも言える。

スリン氏は、民衆中心の共同体を実現するための取り組みの一環として、市民団体との交流を強化することに熱心に取り組んだ。氏はASEAN事務局を「ネットワークの事務局」に変え、世界とASEANとのつながりを強化した。氏は、市民団体との交流こそがASEAN共同体を強化するだろうと熱烈に信じていた。2008年にサイクロン・ナルギスがミャンマーに甚大な被害をもたらしたの時には、ASEANの外務大臣らと、国際人権団体による地域の市民社会組織への協力を許可するように、ミャンマー政府に力強く働きかけを行った。

また、東アジア・アセアン経済研究センター (ERIA) の創設にも深く関与した。それは、氏がASEANの経済発展と繁栄にとって世界標準の経済研究と、それに基づく課題に対する政策提言が不可欠であると考えていたためであった。

スリン氏は、身命を賭して東アジア地域における人権、民主主義、教育、政治改革、そして経済統合といった課題に取り組んできた。それはまさに、彼の生きたASEANに対する愛ゆえのことであったといっても過言ではない。氏の冥福を祈り、またこの地域のみならず世界の発展に深く貢献してきたスリン氏の栄誉をたたえ、メモラブル賞を授与したい。

過去の受賞者

第1回(2012年)

❖大賞



スパチャイ・パニチャパック
(Supachai Panitchpakdi)
国連貿易開発会議(UNCTAD)
事務局長(当時)

❖経済・社会科学賞



ベネディクト・アンダーソン
(Benedict Anderson) 故人
政治学者、コーネル大学政治学部名誉教授

❖文化賞



井上 雄彦
(Takehiko Inoue)
漫画家

❖メモラブル賞(特別賞)



故ハディ・スサストロ
(Hadi Soesastro)
インドネシア戦略国際研究所元所長

第2回(2014年)

❖大賞



マンモハン・シン
(Manmohan Singh)
前インド首相

❖経済・社会科学賞



ピーター・デーヴィッド・
ドライスデール
(Peter David Drysdale)
経済学者、
オーストラリア国立大名誉教授



ワン・グンウ
(Wang Gungwu)
歴史学者、
シンガポール国立大学
上級教授

❖文化賞



リティー パン
(Rithy Panh)
映画監督



宝塚歌劇団
(Takarazuka Revue)

第3回(2017年)

❖大賞



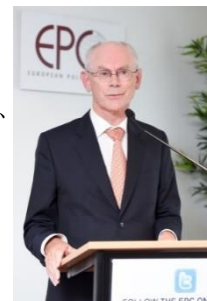
テイン・セイン
(Thein Sein)
前ミャンマー連邦共和国
大統領

❖経済・社会科学賞



藤田 昌久
(Masahisa Fujita)
甲南大学特別客員教授、
京都大学経済研究所
特任教授

❖文化賞



ヘルマン・ファン・ロンパイ
(Herman Van Rompuy)
日EU俳句交流大使、
欧州理事会名誉議長